

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.5.25 No. 75 連絡先 FAX 042-555-1911



5月16日横田基地第14回座り込み行動 5.16普天間基地包囲行動



5月16日、晴天に恵まれ行われた「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の座り込み行動には、参議院議員の小池あきらさんが激励に駆けつけてくれました。

小池議員は「横田基地の強化が着々と進行している」と強調。経費は4年間で544億円の税金が使われていると批判し、「この重大性・危険性を知らせていきたい」とあいさつ。「沖縄の嘉手納町長は『今年は安保50年。100年も基地があり続けていいのか』と、保守の立場からも、安保体制を問い直す声が出ている」と紹介しました。

大雨警報が出るなか1万7千人が 普天間基地を包囲



16日、普天間基地撤去と「県内移設」反対を求める「普天間基地包囲行動」が宜野湾市で行われました。大雨・洪水警報が出される中、約17,000人が参加し、基地の外周約13キロを、午後2時、2時半、3時の3回、“人間の鎖”で包囲しました。

普天間基地包囲行動は1995年に始まり、今年は5回目。伊波洋一宜野湾市長など県中部7市町村長が共同代表となり、「人間の鎖」に参加したのは初めてです。

包囲行動後の会見で、伊波市長らは「これだけの雨にもかかわらず包囲が成功し、普天間の閉鎖・返還や県内移設反対を訴える県民の思いを内外に示せた」と意義を強調しました。

名護市の稲嶺進市長が加わって行われた共同声明発表で両市長は、「国土面積0.6%の沖縄に、県民の人権と環境を無視して新基地をつくるべきではない」と訴えました。



(普天間基地包囲 大西照雄氏提供)

5月23日(日)から27日(木)まで 横田基地で運用即応演習 (ORE)

北関東防衛局からの情報によると、24時間態勢で、上記の運用即応演習 (ORE) が実施されます。23日は情報会議日で、実際の訓練は24日から27日まで。

演習の目的: 仮想戦闘環境における基地の機能テストを行う。具体的には、テロ攻撃や航空機又は地上戦闘力等による基地への攻撃を想定し、実践的な即応体制をとることを目的とした演習。

演習の概要: 基地上空を飛ぶ飛行機から攻撃 (GBS を模擬に使用) を受けたと想定して行う。特に、24日 (月) 23:00 滑走路上にヘリコプターを実際に駐機させ、同機から出火したとして訓練を行う。緊急用車両 (消防車、救急車) の出動については、作戦指揮者の考えで実施する可能性がある。

PAS GBS 及び煙幕等の使用予定: 23日又は24日 PAS テスト放送。25日以降は1日数回使用。

- PAS (パブリック・アドレス・システム) 大音響の出る特殊なスピーカーを使用し、サイレンや広報を行う。
- GBS (グラント・バースト・シミュレーター) 地上爆発模擬装置。金属製の容器内で爆発物を破裂させ、爆発音を発生させる。使用時に音と光と煙幕が出る構造であり、光は2~3フィート程度の範囲。(1ft = 30.48 cm)

横田基地は 福生市のCO2削減計画の障害

(No. 75 裏面)

(奥富喜一福生市議よりの情報)「一般質問の題材、『環境CO2問題』第2弾として、つっこんだ質問の材料をもらおうと、福生市役所に行き、環境課の課長と主任に、CO2削減の取り組みの現状について聴取しました。福生市では、『福生スクラム・マイナス50%協議会福生エネルギー市民会議』、『糸永浩司日本大学生物資源科学部教授』の取り組みがありますが、この現状と、市の行政としての取り組み状況、到達点。都、国の取り組みとの関係などです。

その中で、ここでも重大な障害の一つとして横田基地問題であることが分かりました。

CO2削減の統計数値の係数が2009年(平成21年)から統一されたそうですが、横田基地の電気の消費などが全て福生市の消費として計算されてしまうとすることで、膨大な消費が加算されてしまうため、市や市民の努力、市内業者の環境負荷削減の努力が見えないようになっていたとのことでした。このことについて、担当者レベルで都に対して、基地消費分の公表を求めているが、顧客の個別情報について明らかに出来ないということで、明らかにならないために、大きな数値上の壁に突き当たっているそうです。(横田基地面積:約7.14平方キロメートル、狛江市より広い。福生市(面積約10.2平方キロメートル)の3分の1の面積を横田基地が占める)

「思いやり予算」で米軍施設の水光熱費が支払われている！

米軍への「思いやり予算」は、1978年度、労務費62億円を支出することからはじまり、翌年の1979年度からは施設整備費140億円が加わりました。1991年度には水光熱費の12.5%の27億円が加わり、段階的に引き上げられ1995年度には全額の305億円が日本の負担となり、米軍は電気・ガス・水道・下水道の使い放題となりました。国会での告発、「米兵が自分の部屋で使った水道代や電気代まで、なぜ日本持ちなのか」など防衛施設庁の幹部からの不満、国民の批判を受けて、2001年4月発効の新特別協定では、水光熱費にかんして、①日本側が負担してきた基地外の米軍住宅分を米側負担とする、②それ以外の負担については、現行の上限調達量を10%引き下げることなど、若干の減額措置をとらざるをえませんでした。

「横田基地の米軍住宅に住む人は、1ヶ月家を空けるときでもクーラーはつけっぱなし」「300アンペアなので電化製品は使い放題」「基地外住宅でも電気代の補助が出ている」などの話があります。「思いやり予算」すべてに言えることですが、詳細を明らかにし、直ちに「思いやり」はやめるべきです。ちなみに2010年度の水光熱費は249億円です。

横田基地 在日米軍司令官にフィールド氏 374空輸航空団司令官にフェザー大佐

在日米軍司令部は12日までに、オバマ大統領が在日米軍司令官にバートン・フィールド空軍少将を指名したと発表しました。中將への昇進と合わせ、上院の承認を経て就任します。

フィールド少将は現在、アフガニスタン・パキスタン担当の米特別代表の上級顧問として国防総省で勤務しています。エドワード・ライス現司令官はランドルフ空軍基地(テキサス州)の航空教育・訓練軍団司令官に転出、大將に昇進するとも伝えられています。

また、米空軍第374空輸航空団の司令官に14日、ポール・フェザー大佐が就任しました。フェザー大佐は、ドイツ・ラムシュタイン米空軍基地の第17空軍参謀長を務め、これまでに飛行時間3900時間、361の紛争地に赴任したそうです。横田基地で行われた交代の式典で在日米軍司令官のエドワード・ライス中將から第374空輸航空団の団旗を手渡され、「クウェートとともに働いた日本の自衛隊と再び働くことができ光栄だ。他の基地の模範となるよう働きたい」と抱負を述べたそうです。退任するマーカス・ヒックス大佐は19日付で、米国防総省空軍司令部の長官・参謀長行政実行グループ部長に、異例のスピードでの転出です。